

気候情報

2018年7月の日本の天候

- 北・東・西日本では気温がかなり高かった
- 「平成30年7月豪雨」が発生
- 東日本と西日本日本海側では日照時間がかなり多かった

7月の天気概況

8日頃にかけては、梅雨前線や台風第7号の影響で、多量の水蒸気が長時間にわたって流れ込んだため、全国的に大雨となり、西日本を中心に土砂災害や河川の氾濫など甚大な被害が生じた（平成30年7月豪雨）。

その後は、東・西日本では太平洋高気圧に覆われて晴れて厳しい暑さとなり、月平均気温は、地域平均でみると、東日本で平年差+2.8℃となり、1946年の統計開始以来、7月としての第1位を更新し、西日本は1994年に次ぐ第2位タイとなった。

上旬：4日頃にかけては、梅雨前線は日本海北部から北日本付近に停滞し、台風第7号が沖縄・奄美付近から九州の西海上を北進して日本海へ進んだため、東日本の一部を除いて曇りや雨の日が多かった。9日から10日にかけては太平洋高気圧の勢力が強まり、東・西日本では晴れた所が多く、九州北部、中国、近畿、東海、北陸の各地方は9日頃に、四国地方は10日頃に梅雨明けした（速報値）。旬平均気温は、東・西日本で高く、北日本で平年並だった。一方、沖縄・奄美はかなり低かった。旬降水量は、北日本、東日本日本海側、西日本と沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。旬間日照時間は、北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、北・西日本太平洋側で少なかった。西日本日本海側は平年並で、東日本は多かった。

中旬：太平洋高気圧の勢力が日本付近で強く、東・西日本では太平洋高気圧に覆われ、晴れて厳しい暑さの日が続き、記録的な高温となった。一方、北日本では低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多い所があったが、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多い所もあった。東北南部は14日頃、東北北部は20日頃に梅雨明けした（速報値）。旬平均気温は、東・西日本でかなり高く、北日本で高かった。一方、沖縄・奄美では低かった。旬降水量は、東・西日本はかなり少なく、北日本太平洋側は少なかった。北日本日本海側と沖縄・奄美は平年並だった。旬間日照時間は、東・西日本でかなり多く、北日本太平洋側は多かった。北日本日本海側と沖縄・奄美は平年並だった。

下旬：東・西日本は、中旬に引き続き太平洋高気圧に覆われて、晴れて厳しい暑さの日が続き、23日には熊谷（埼玉県）で日最高気温が41.1℃となり、歴代全国1位を更新した。北日本は、高気圧に覆われて晴れた日が多く、旬のはじめと終わりは気温がかなり高かった。旬平均気温は、北・東・西日本でかなり高

く、沖縄・奄美では平年並だった。旬降水量は、東日本太平洋側と沖縄・奄美では多く、西日本太平洋側では平年並だった。一方、北日本と東日本日本海側ではかなり少なく、西日本日本海側で少なかった。旬間日照時間は、北・東日本日本海側でかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本日本海側では多かった。西日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並だった。

7月の気候統計

月平均気温：北・東・西日本でかなり高かった。一方、沖縄・奄美では低かった。

月降水量：北日本日本海側と西日本太平洋側、沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側と東日本および西日本日本海側は平年並だった。

月間日照時間：東日本と西日本日本海側でかなり多く、北日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。北日本太平洋側は平年並だった。

（気象庁観測部情報管理室）

7月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温高い方から（℃）
熊谷 28.9 京都 29.8 など47地点
- ・月降水量多い方から（mm）
多度津 464.5
- ・月間日照時間多い方から（h）
金沢 289.4 富山 288.7 など5地点
- ・月間日照時間少ない方から（h）
浦河 59.1

2018年7月の平年差（比）図

